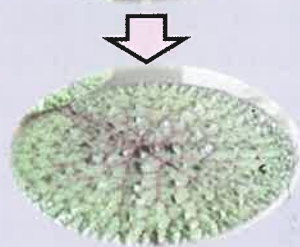


# オニバス

〔学名：Euryaleferox.〕

- スイレン科の植物で、じめじめしている所に生育している。
- 葉の大きさは1~2m、すだれトゲ(1~3cm)でおおわれている。
- 花が咲くのは6~9月で、4cmほどのあかむらさき色のきれいな花を咲かせる。
- 現在、絶滅の恐れの高い絶滅危惧Ⅰ類に選ばれています。  
(絶滅危惧Ⅰ類：野生で育つのが困難なもの。)
- ザリガニ、雑草を枯らすための薬がオニバスの存続を脅かす原因。



7月13日に出雲大社の『浄の池』にオニバスを移植しました。浄の池はホタルの生息地になるくらいキレイな池です。どんどんオニバスが育ってくれるといいです。



松江農林高校3年 久木海美さん作品 「オニバス保護活動パネル」

## 目次

「隠岐ジオパークを紹介します！」	2
2013年は大山隠岐国立公園50周年～サヒメル春の企画展～	3
三瓶小豆原埋没林の発掘調査	3
自然観察会(奥出雲町)(美郷町)	4
自然観察会(津和野町)(吉賀町)	5
遊歩道 整備のあとの散策で 心潤う 匹見峡	6
中国自然歩道 千丈溪モデルコース リニューアル中!	6
「みんなで守る郷土の自然」新規選定地域 ～やなしお道～	7
オニバスの保全活動	7
ヒメバイカモの保全活動	7
しまねレッドデータブックの第2次改訂を行いました(植物編)	8
自然保護関係表彰受賞者の紹介	8
自然公園指導員・自然保護レンジャー 研修交流会開催	8

# しまねの自然

vol.42  
平成25年3月



# 「隠岐ジオパークを紹介します！」

## ■めざせ世界ジオパーク

今年、国立公園指定50周年を迎える隠岐諸島は、平成21年10月に日本ジオパークに認定され、現在、世界ジオパークへの認定申請中です。昨年9月にポルトガルで開催された世界ジオパークの審査会では、情報が不足しているとの理由で認定が保留となりました。

ジオパークは、優れた価値を持つ地質遺産を有すると同時に、生態系や人の営みとの関わりまでを総合的に体験できる自然公園です。現在、世界ジオパークは26か国90地域が加盟しています。

また、日本ジオパークは25地域あり、そのうち洞爺湖有珠山や島原半島など5地域が世界ジオパークになっており、隠岐は6番目の加盟を目指しています。



国賀浜での現地審査の様子（西ノ島町）

## ■隠岐ジオパークの特長

隠岐諸島は、ユーラシア大陸の一部だった時代から、湖や海の底にあった時代、約600万年前頃の火山活動によって海底から隆起して火山島となった時代、海面が下がって半島となった時代などを経て、約1万年前に現在のような離島になりました。

そのような大地の変化を背景に、他に類を見ない独自の生態系が形成されていくとともに、そこに暮らす人々も離島という地理的条件の中で様々な歴史文化を育んできました。



白島海岸（隠岐の島町）



赤ハゲ山からの島前湾（知夫村）

## ■認定見送りとその後

昨年末に世界ジオパーク事務局より世界認定に関する文書照会があり、現在、隠岐ジオパーク推進協議会が中心となって回答を作成中です。

ジオツーリズムの推進方策など、数項目について回答を求められていますが、既定方針に沿ってわかりやすく説明できれば、世界認定は十分可能だと思われれます。

早ければ、9月上旬に韓国・済州島で開催されるアジア太平洋ジオパーク大会で世界認定が発表される予定です。



昨年の発表会場の様子（ポルトガル）

## ■島根県の取り組み

世界認定に向けて、国内外から訪れる人々の受入体制を整備するため、環境省、島根県、地元町村が連携して施設等の整備が行われています。

島根県の事業として、平成23年度からの3年間に隠岐の自然公園の施設整備を重点実施しています。平成の初め頃に集中的に整備した施設が多く更新時期を迎えていることもあり、トイレの水洗化・バリアフリー化3か所、園地、歩道等の修繕10か所、外国語併記のジオサイト解説板等72基、指導標等60基など、大がかりな事業となりました。



ジオパーク解説板（島前カルデラ）

# 2013年は大山隠岐国立公園50周年 ～サヒメル春の企画展～

大山隠岐国立公園は山陰地方を代表する自然の風景地で、県内では三瓶山、島根半島、隠岐諸島の3地区が指定されています。今年、これらの地区が国立公園に指定されて50周年を迎えます。三瓶山地区ではこれを記念して、3月2日に行われた「さんべ花火大会」を皮切りに、三瓶山の豊かな自然を保護・継承していくための移動展示会など、様々な記念行事が年間を通して予定されています。

三瓶自然館でも、国立公園指定50周年を記念した企画展「未来につなぐ三瓶の自然・隠岐の自然」を開催します。期間は3月16日(土)から5月19日(日)まで。国立公園に指定されるまでの歩みや指定された理由、三瓶山に生きる動植物の剥製やレプリカ、昔の風景を写した懐かしい写真などを紹介します。また、世界ジオパーク認定へ向けた取り組みも進められている隠岐地区については、隠岐諸島が形成されるまでの地史的な紹介にあわせて、かつて暮らしていたナウマンゾウやワニの全身化石を展示します。高さ2mを超えるナウマンゾウの全身骨格は圧巻です。

島根県の宝ともいえる三瓶山や隠岐の自然について、その価値を見直すとともに、世界ジオパーク認定へ向けての機運を高める機会になることを期待しています。



## 三瓶自然館サヒメル春の企画展 「未来につなぐ三瓶の自然 ・隠岐の自然」

期 間:開催中～5月19日(日)まで  
場 所:大田市三瓶町多根1121-8  
三瓶自然館サヒメル  
TEL 0854-86-0500

サヒメル

検索 🔍

あすきはら まいぼつりん

## 三瓶小豆原埋没林の発掘調査

### ■小豆原埋没林の概要

三瓶小豆原埋没林は、およそ4千年前に噴火した三瓶山の火砕流や噴出物によって当時のスギ巨木林が立ったままの状態です。土の中に保存されたもので、その規模と形成過程から世界的に類例を見ない貴重な自然遺産です。

この埋没林は、1983年に撮影されたほ場整備工事の写真からその存在が明らかになり、民間研究者(松井整司氏)と島根県が1998年から発掘調査を行ったところ、約1ヘクタールの区域から30本以上の巨木が立ったままの状態で見つけられました。

現在、発掘展示棟で展示しているのは発見された埋没木の一部で、公園内には20本以上の巨大な埋没木が土の中に保存されています。

### ■埋没木の保存状態は?

今回の調査では、埋め戻して地中に保存している埋没木の先端部を掘り出して、埋没木の組織や周辺の土壌などのサンプルを採取し、腐朽度合や化学的性質を調べることにより、保存状態を確認しました。調査を行った奈良文化財研究所保存修復科学研究室の高妻洋成室長によると「保存状態は良好

と見られる」とのことでした。

### ■一般公開には関東地方からも

また、調査後の2日間(5月12日、13日)発掘調査現場を10年ぶりに一般公開しましたが、県内外から多くの埋没林ファンが訪れ、4千年前の縄文の森に思いを馳せていました。

最も遠くからの見学者は栃木県の方で、5月12日の新聞記事を見て急遽、列車と飛行機を乗り継いで来県されました。

### ■10周年記念シンポジウム

4月27日(土)には大田市駅隣の「あすてらす」を会場に10周年記念式典が開催されますので、是非、ご参加下さい。

問合せ先:三瓶自然館  
0854-82-0500



高妻室長による調査 H24.5.11



一般見学会 H24.5.12

## 自然観察会

# 鬼の舌震山菜紀行（奥出雲町）

「鬼の舌震」は、斐伊川の支流「大馬木川」の中流部に約2kmにわたって広がる溪谷で、昭和2年には国の名勝天然記念物として、また、昭和39年には県下5番目の県立自然公園として指定されました。

「出雲國風土記」に「阿伊の里に住む玉姫の命という美しい女性を恋慕った日本海の和仁（わに=サメ）が、夜な夜な斐伊川を通い来た。これを嫌った姫が巨石で川をせき止めワニを拒んだところ、ワニは一層姫を恋慕った」とあり、この「ワニのしたふるい」が転訛し「鬼の舌震」となったという説もあります。

さて、三成中央公民館で昨年度から取り組んでいる自然観察会において、今年度は「山菜紀行」をサブテーマとし、大人(約40名)と子供(約20名)の2グループに分かれ、新緑のまぶしい五月晴れの日、公園を中心とした周辺約片道1kmを楽しく観察しました。

2名の県自然解説員に、食べられる植物と毒のある植物をそれぞれ分かりやすく説明をいただき、子供たちのグループの中には、道端でいつも見ている草が食べられるのを知ると、恐る恐る口に入れ、そ



の苦さに泣き出す子供もいましたが、楽しい歓声が山々にこだましていました。

また、地元の方に山菜料理をお願いしたところ、快く引き受けていただき、前日から地元の山に入り沢山の山菜を収穫していただきました。

疲れ気味で食事場所に到着した参加者（遠くは広島市）でしたが、苦かったあの野草が天ぷらにするところなのに美味しくなるのかと驚かれ、自然の恵みに感謝するとともに、鬼の舌震の自然を感じていただく絶好の一日となりました。



## 自然観察会

# 石見銀山街道ウォークやなしお満喫コース（美郷町）

美郷町にある中国自然歩道のやなしおモデルコースは石見銀山の銀を運んだ陸路「銀山街道」として自然とともにその歴史や文化に触れることのできるコースです。

美郷町石見銀山街道振興協議会の主催により、平成24年10月21日(日)に開催したウォーキングは、秋の自然・植物(きのこ)観察と銀山街道の歴史やみどころを解説しながらウォーキングをする企画で、町内をはじめ島根県内各地から26名の参加がありました。きのこ観察では「キノコアドバイザー」を講師に迎え、コース内で見られる様々なキノコについて詳しく解説していただきました。今年は天候のせいもあって例年に比べると少なめでしたが、それでも参加者の皆さんは自分たちで新たなキノコを発見しては種類や毒の有無、食用なのかなど熱心に質問していました。最後には途中で発見した大量の食用キノコを収穫し

て持ち帰りました。

やなしお道は銀山街道の中でも当時のたたずまいを色濃く残しています。今も変わらない景色や自然の恵みを講師に解説いただくことで、より大きく実感することができました。



## 初夏の安蔵寺山を楽しんで

## ～安蔵寺山ブナ林自然観察会（津和野町）～

ブナ林のもつ自然の豊かさや美しさを知るとともに、そこに生息する野鳥や植物の観察を通して、自然環境を守ることの大切さについて考えることを目的に、毎年6月の環境月間の協賛事業として開催しています。安蔵寺山には、県内でもわずかとなったブナの原生林が残っており、観察会では講師の方々から詳しい説明を聞くことができると好評で、今年は6月17日（日）に県内外から32人が参加し、野鳥観察班、植物観察班、山頂登山班にそれぞれ分かれて自然観

察を行いました。広葉樹の木漏れ日を浴びながら時折足を止め、エゾハルゼミの声に聞き入ったり、倒木に宿る新しい命を見つけたり、幹に熊の爪あとの残る木を眺めたり、上空を優雅に飛ぶクマタカの姿を目にすることもでき、参加者のみなさんは時間が過ぎるのも忘れ、安蔵寺山の自然を満喫していました。



## コウヤマキ自生林観察会（吉賀町）

8月26日（日）、田中幾太郎氏（たなかいくたろう）、戸山敬子氏（とやまけいこ）、三島好信氏（みしまよしのぶ）の3名の講師を迎え、有飯たんぼの会を中心に地元住民の協力のもとコウヤマキ観察会が開催されました。

平成24年春に開業した東京スカイツリーの足元に吉賀町のコウヤマキが移植されたことから「吉賀町のコウヤマキ」は新聞等でも話題となりました。例年以上に町外からの問合せが多くあり、新しい参加者も数多く見ることができました。しかし、今年は観察会がより充実するようにと1グループ20名、計60名定員で参加者を募ったことから、残念ながら参加できなかった方も多かったようです。

観察会は、例年と同様、講師と参加者が1つのグループになり自生林内を散策しました。散策後、コウヤマキギャラリーからの美しい立ち姿のコウヤマキ群を眺めながらとる昼食は好評で、毎年参加される方から今年初めてという方まで楽しかったと語らう姿が見られました。



## 遊歩道 整備のあとの 散策で 心潤う 匹見峡

西中国山地国定公園の指定を受けている益田市の匹見峡。裏匹見峡は国道488号の沿線にあり、切り立った断崖や変化に富んだ溪流のうねりは男性的で勢いがあります。奇岩巨岩の間を縫うように水が流れ、水面が神秘的な色をなす「平田淵」、水墨画を連想させる数百メートルの屏風岩がそそり立つ「鈴ヶ嶽」など自然が創り出す大絵巻が見どころとなっています。（遊歩道整備工事が全線完了すればご覧いただけます。）

奥匹見峡は匹見町道川の三の谷一带に広がる峡谷で、その景観は「秘境」といわれるにふさわしい趣が漂っています。国道191号から朱色の三の滝橋を渡って進入道を行くと駐車場があり、そこから手軽に散策いただけます。高さ15メートルの「二段滝」、高さ53メートルの「大竜頭」などの景勝が連なっています。

益田市では、お越しの皆様に安全に峡谷を散策いただけるよう、平成22年から奥・裏匹見峡遊歩道整備工事を行っています。奥匹見峡については昨年11月に全線工事完了しました。裏匹見峡も年次的に整備を完了しているところですが、来年度においても

引き続き工事を行っています。

ゆっくり歩いてみる匹見峡は魅力満載。多くの皆様に、清流で心を潤していただきたいと考えています。

【問い合わせ先】

益田市匹見総合支所

経済課

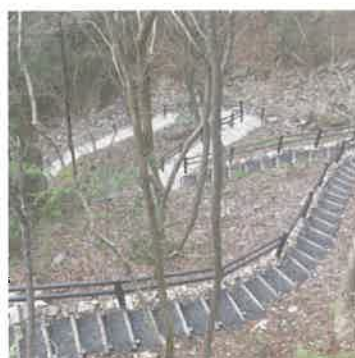
TEL 0856-56-0305



裏匹見峡 平田淵



奥匹見峡 大竜頭



裏匹見峡遊歩道整備工事完成後

## 中国自然歩道 千丈溪モデルコース リニューアル中！

中国自然歩道は、自然の中を歩きながら地域の豊かな自然や歴史、文化に親しみ、あわせて自然保護に対する意識を高めていただくという趣旨で、中国5県を一本の道で結んでいる歩道です。県内でも特にみどころの多い区間をモデルコースとして（現在37コース）設定しています。

このうち邑南町日和から江津市江尾にまたがる千丈溪モデルコースは、江の川の支流八戸川に注ぐ日和川が、長い年月をかけて石英粗面岩の岩肌を浸食してきた、約5kmにわたる県内有数の渓谷「千丈溪」を歩くコースです。渓谷沿いには歩道が整備されており、歩道に沿って魚切の滝、白藤の滝、紅葉滝、一の滝などの豪壮な滝群、大淵、おし



新緑の「一の滝」



紅葉の「千畳敷」

どり淵、箱淵などの深淵、千畳敷、松ヶ丘などの岩棚が連続し、春の新緑、秋の紅葉と四季を通じて自然を楽しむことができます。

また千丈溪は、昭和7年に国の名勝、昭和39年には県立自然公園に指定されています。

県では平成24年度から、老朽化が進んでいる橋や栈橋の修繕を行い、利用者の安全確保に努めているところです。

紅葉や新緑の時期には工事は行いませんので、皆さん、ぜひお越し下さい。

## 「みんなで守る郷土の自然」 新規選定地域 ～やなしお道～

やなしお道では、“美郷町銀山街道を護る会”が地元の別府連合自治会と連携して希少種保護のための保全看板設置や道の整備等を実施したり、美郷町と連携して月例のウォークイベントを開催するなど、保全活動や普及啓発活動が活発に行われています。

また、歩道の維持管理についても“美郷町石見銀山街道振興協議会”主催によるボランティア作業により、はじめにしていた歩道区間約15mが、とても歩きやすくなりました。



ボランティア作業の様子



新設した「みんなで守る郷土の自然」看板

## オニバスの保全活動

自生地が松江市内1箇所となった指定希少野生動物オニバス（鬼蓮）の絶滅リスク分散を目的として県内5箇所の移植地で種の保存を行っています。

昨年7月にはオニバス保護管理計画に基づく移植地の拡大を行うため、移植地の一つである松江農林高校のオニバスの一部を、再整備が行われた出雲大社境内にある「浄の池」へ移植しました。

移植作業の当日は出雲大社に参拝後、降りしきる雨の中、松江農林高校の生徒たちにより約50株のオニバスを移植しました。オニバスは一定以上の大きさになると名前の由来となった鋭い棘で覆われるため、この棘による痛さを我慢しながらの作業となりました。

移植後の追跡調査によりオニバス個体の定着を確認し、8月には開花・結実を確認することができました。

出雲大社へ御参拝の際には、是非、「浄の池」にも足を運んでみてはいかがでしょうか？（7月～9月）



## ヒメバイカモの保全活動

指定希少野生動物植物ヒメバイカモ（姫梅花藻）は県内では高津川の上流域でしか見ることができない水生植物です。

昨年11月にヒメバイカモの生育環境を改善するため、地元住民や保全団体により競合種であるツルヨシの除去作業を行いました。ツルヨシは背丈以上の高さで河川一面に繁茂していたため、刈り取り作業、集積作業では皆さん大変苦勞をされていました。

作業前にはツルヨシで水面も見えない状況でしたが、作業後には透明度の高い清流高津川の水を望むことができました。

今回の保全活動を通じて、ヒメバイカモが地域の貴重な宝物であることを参加者が改めて認識し、保全活動に対し理解を深めてもらうことができました。こうした保全活動は一過性に終わっては意味が無く、地元の方々による継続的な取り組みが期待されます。



保全活動前



保全活動後

# 守ろう!しまねの希少野生動植物

～しまねレッドデータブックの第2次改訂を行いました(植物編)～

## しまねレッドデータブックとは

- ・島根県の絶滅のおそれのある野生動植物を取りまとめたものです。
- ・絶滅のおそれの度合いに応じて、掲載種を選定しています。  
(絶滅、絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類、準絶滅危惧種、情報不足など)
- ・島根の豊かな自然環境や多様な野生動植物を守るための基礎資料として活用。

## 改訂の概要

- ・前回改訂(2004発行)から9年ぶりの改訂となります。
  - ・今回の掲載種数は、合計394種(前は361種)。
  - ・そのうち新規に掲載された種は42種。
  - ・A4版
  - ・カラー18ページ  
(写真144枚)
  - ・2色刷り254ページ
- ※動物編は平成25年度発行予定。

## 入手・閲覧方法について

- ・島根県自然環境課ホームページでご覧いただけます。
- ・冊子は以下の施設で販売(1,000円税込)されます。  
島根県宍道湖自然館ゴビウス TEL 0853-63-7100 島根県立三瓶自然館サヒメル TEL0854-86-0500  
(4月から販売開始予定です。詳しくは上記連絡先へお問い合わせください。)

SHIMANE RED DATA BOOK 2013  
改訂 しまね  
レッドデータブック  
2013 植物編  
島根県の絶滅のおそれのある野生植物



2013植物編の冊子

## 自然保護関係表彰受賞者の紹介

### ●島根県各種功労者表彰(島根県知事)

大田市 林 謙治郎さん 自然公園指導員、自然保護レンジャー、三瓶自然館インタープリターほか  
雲南市 赤川ほたる保存会 雲南市大東町の中心部を流れる「赤川」のホタルの保護活動

### ●「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰

吉賀町 コウヤマキ保護育成会 島根県自然環境保全地域に指定されている六日市コウヤマキ自生林の保護育成活動

### ●自然公園関係功労者環境大臣表彰

出雲市 飯塚 隆さん 自然公園指導員、自然保護レンジャーほか

### ●自然公園指導員表彰(環境省自然環境局長)

大田市 鈴垣 英晃さん 自然公園指導員ほか

### ●環境保全功労者知事感謝状

松江市 来海 満義さん 自然保護レンジャーほか

松江市 國井 秀伸さん しまねレッドデータブック改訂委員会委員ほか

川本町 みんなで守る谷戸の自然 島根県の固有種で、環境省や県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている「イズモコバイモ」の保護活動

## 自然公園指導員・自然保護レンジャー 研修交流会開催

平成24年10月13日(土)三瓶自然館サヒメルを会場に、自然公園指導員と自然保護レンジャーの研修交流会を開催しました。指導員とレンジャーは4月に改選され、現在の総数は指導員43名、レンジャー129名です。研修交流会には25名が参加され、サヒメルの皆木学芸員から「危険生物に出会った時の対処法」を学んだほか、小グループに分かれての意見交換会や姫逃池のほりでの茶話会等で交流を深めました。

